官報

第四千三百二十六號

明治三十年十二月一日　水曜日

內閣官報局

○閣令

閣令第四號

明治十六年五月太政官第二十二號達中左ノ通改正ス

明治三十年十二月一日　內閣總理大臣　伯爵松方正義

第四條　官報ハ左ノ定價ヲ以テ官報局ニ於テ發賣ス

一　一箇月（各月初日ヨリ末日ニ至ル）分（配送費トモ）　金六十錢

一　一部（配送費トモ）　金三錢

官報ヲ購求セントスル者ハ各官廳ヲ除クノ外其ノ定價ヲ前納スヘシ

第七條　各官廳ハ官報ヲ購讀スヘキ義務アルモノトス

附　則

本令ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

閣令第四號參照

太政官第二十二號達（明治十六年五月十日）抄錄

第四條　官報ハ別記定價ヲ以テ官報局ニ於テ發賣セシムルニ付直チニ同局ニ就テ購求スヘシ

（別記）

官報定價

一箇月金五拾錢　一部金貳錢

第七條　左ニ掲クル者ハ官報ヲ購讀スヘキ義務ヲ有スルモノトス

但シ各官廳ハ其定額ヲ以テ購求スヘシ

第一

省院廳府縣裁判所警察署郡區役所

參謀本部監軍本部近衛局鎭臺營所鎭守府憲兵本部及屯署（以上各官廳ノ名稱ハ改ヲ[illegible]原文ヲ存シ改竄刪潤セス）

官立學校

第二

上長官以上ノ武官奏任以上ノ文官

○省令

海軍省令第十九號

明治二十九年海軍省令第二號海軍少軍醫少藥劑官少軍醫候補生及少藥劑官候補生採用試驗規則中左ノ通改正ス

明治三十年十二月一日

海軍大臣　侯爵西郷從道

「海軍少軍醫少藥劑官少軍醫候補生及少藥劑官候補生採用試驗規則」ヲ「海軍少軍醫少藥劑士少軍醫候補生少藥劑士候補生採用試驗規則」ニ改メ同則中「少藥劑官」ヲ「少藥劑士」ニ「少藥劑官候補生」ヲ「少藥劑士候補生」ニ改ム

第一條中「任用」ヲ「補充」ニ改メ「海軍高等武官候補生規則ニ依リ」ノ十四字ヲ削除ス

第三條學術試驗科目中海軍少軍醫及海軍少藥劑士ノ項各第四ヲ削除シ海軍少軍醫候補生及海軍少藥劑士候補生ノ項各第三中「帝國大學醫科大學卒業ノ者又ハ」ノ十四字ヲ削除ス

第二號書式中「海軍高等武官任用條例第九條」ヲ「海軍高等武官補充條例第十七條」ニ「海軍高等武官候補生規則第八條」ヲ「海軍高等武官補充條例第九條」ニ改ム

海軍省令第十九號參照

海軍省令第二號海軍少軍醫少藥劑官少軍醫候補生及少藥劑官候補生採用試驗規則（明治二十九年三月九日）抄錄

第一條　海軍高等武官任用條例ニ依リ海軍少軍醫若クハ少藥劑官タラントスル者又ハ海軍高等武官候補生規則ニ依リ海軍少軍醫候補生若クハ少藥劑官候補生タラントスル者ハ願書（第一號書式）ニ履歷書（第二號書式）ヲ添ヘ試驗期日十日前マテニ海軍省醫務局ニ差出スヘシ

試驗ノ期日及場所ハ一箇月前ニ官報ヲ以テ告示スヘシ

第三條　學術試驗科目ハ左ノ如シ

海軍少軍醫

四　和文歐譯　帝國大學醫科大學卒業ノ者ニ行フ

海軍少藥劑官

四　和文歐譯　帝國大學醫科大學卒業ノ者ニ行フ

海軍少軍醫候補生

三　帝國大學醫科大學卒業ノ者又ハ私費外國留學醫學校卒業ノ者ニシテ醫術開業免狀ヲ有スル者

學術試驗科目ハ海軍少軍醫ニ同シ

海軍少藥劑官候補生

三　帝國大學醫科大學卒業ノ者又ハ私費外國留學藥學科卒業ノ者ニシテ藥劑師免狀ヲ有スル者

學術試驗科目ハ海軍少藥劑官ニ同シ

遞信省令第三十一號

電話交換規則左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日

遞信大臣　子爵野村靖

電話交換規則

第一章　總則

第一條　此規則ニ於テ電話交換局ト稱スルハ電話交換支局ヲ包含ス

第二條　電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ各電話交換局ノ電話加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　電話加入

第三條　電話交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申込書（第一號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第四條　電話加入ハ二人以上共同シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書（第二號書式）ヲ加入申込書ニ添附スヘシ

第五條　電話交換局ニ於テ加入申込書ヲ受理シタルトキハ電話加入申込原簿ニ登記シ申込順番ヲ申込者ニ通知スヘシ

第六條　電話開通ノ順序ハ加入申込ノ順番ニ據ル但官廳用ニ供スルモノハ其順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第七條　加入申込者電話機ヲ設置スヘキ場所ヲ變更セムトスルトキハ其請求書（第三號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書（第二號書式）ヲ請求書ニ添附スヘシ

第八條　加入申込者卓上電話機ノ設置ヲ請求セムトスルトキハ其請求書（第四號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者卓上電話機ヲ普通電話機ニ又普通電話機ヲ卓上電話機ニ變更セムトスルトキハ其請求書（第五號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第九條　加入申込者又ハ加入者同一戸内ニ於テ同一機械ノ回線中ニ普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ增設セムトスルトキハ其請求書（第六號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

前項ニ據リ增設シタル普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ撤去セムトスルトキハ其請求書（第七號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十條　加入申込者其申込ヲ取消サムトスルトキハ其請求書（第八號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十一條　加入者ノ加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一年トス但第二十四條ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ開通シタルトキハ該期末日マテノ日數ヲ附加ス

前項ノ加入期間以後ハ毎三月ヲ以テ加入期間トス

第十二條　加入者其加入ヲ取消サムトスルトキハ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ其請求書（第九號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ此請求ヲ爲ササル者ハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト見做スヘシ

第十三條　加入者其使用ニ供スル電話機及其附屬物品ヲ他ニ移轉セムトスルトキハ其請求書（第三號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ移轉セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書（第二號書式）ヲ請求書ニ添附スヘシ

第十四條　加入者自己ノ加入ヲ他人ヘ讓渡サムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書（第十號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テ其加入ヲ繼承セムトスル者ハ其相續人又ハ管理人タル證明書ヲ添ヘ其請求書（第十一號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十五條　第六條但書ニ據リ開通シタル電話加入ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十六條　電話加入ノ讓受人又ハ繼承人ハ其加入ニ屬スル權利義務ヲ繼承ス

第三章　電話通信

第十七條　加入者ハ其使用ニ供スル電話機ニ依リ左ノ通話ヲ爲スコトヲ得

一　同一電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話

二　他ノ電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話

三　第十八條ニ據リ電話所ニ來リ通話スル者トノ通話

第十八條　電話所ニ來ル者ハ電話通信心得書ニ據リ同一電話交換局ニ屬スル加入者又ハ他ノ電話交換局ニ屬スル加入者ト通話ヲ爲スコトヲ得

第十九條　左ノ通話ハ毎五分時間マテヲ以テ一通話時トス

一　電話所ニ來ル者ト加入者トノ通話

二　所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話

本條ノ通話ハ一通話時ヲ超エテ繼續スルコトヲ得ス但他ニ通話請求者ナキトキハ此限ニ在ラス

第四章　料金

第二十條　加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スヘキ加入申込者ハ加入登記料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ

第二十一條　加入者ハ電話使用料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スル加入者又ハ第八條ニ據リ卓上電話機ヲ設置シ若ハ第九條ニ據リ機械ヲ增設シタル加入者ハ電話使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ

第二十二條　加入者第十三條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ

加入者特別加入區域内ニ於テ機械ノ移轉ヲ請求スルトキハ機械移轉料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ

第二十三條　電話所ニ來リ通話ヲ爲ス者ハ電話料ヲ納ムヘシ

所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話ヲ爲シタルトキハ其請求者ヨリ電話料ヲ納ムヘシ

第二十四條　電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ毎一期分ヲ前期ノ末日マテニ電話交換局ニ前納スヘシ

第一期　四月一日ヨリ六月三十日マテ

第二期　七月一日ヨリ九月三十日マテ

第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第四期　一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第二十五條　加入初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其期ノ末日ニ至ルマテノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ其加入後新ニ附加使用料ヲ納ムヘキ場合ノ生シタルトキ亦同シ

第二十六條　加入者第十一條第一項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキハ其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ノ未納額ヲ一時ニ納付スヘシ

加入者第十二條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ第八條第二項又ハ第九條第二項若ハ第十三條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納付スヘシ

第二十七條　電話料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

一　電話所ニ來ル者ハ一通話時ノ料金ヲ其電話所ニ前納シ二通話時以上ニ渉リタルトキハ通話ヲ終リタル後其未納料金ヲ納付スヘシ

一　加入者ハ一月分取纏メ翌月二十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ

第二十八條　加入登記料ハ加入申込ヲ爲ストキ電話線接續料及機械移轉料ハ電話交換局ノ指定スル期日マテニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ

第二十九條　加入登記料、電話使用料、附加使用料、電話料、電話線接續料及機械移轉料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條　前條ノ料金ハ都テ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第三十一條　加入登記料、電話線接續料及機械移轉料ハ其申込又ハ請求ヲ取消シタルトキト雖之ヲ還付セス

電話所ニ來ル者ノ前納シタル電話料モ已ニ郵便切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第三十二條　加入者第十一條第二項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス

電話機及其附屬物品ノ移轉又ハ增設機械ノ撤去若ハ電話機ノ變更ニ因リ附加使用料ノ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ其期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セス

第四十條ニ據リ通話ヲ停止セラレタルトキモ亦其停止期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ免除セス

第三十三條　加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因ラスシテ電話不通ニ至リ其日數十五日以上ニ亙ルトキハ不通期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ徵收セス若既納ノ電話使用料及附加使用料アリタルトキハ加入者ノ請求ニ依リ其不通ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

前項不通ノ日數ハ電話交換局ニ於テ其事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第五章　雜則

第三十四條　加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ハ電話交換局ニ於テ之ヲ設備ス

第三十五條　電話交換局ハ時々吏員又ハ其所屬員ヲ派遣シ加入者ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ點檢セシムヘシ此場合ニ於テハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶セシムヘシ

第三十六條　電話交換局ハ加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ其電線、機械及物品ノ裝置シアリタル造營物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス

第三十七條　加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因リ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第三十九條ニ違背セル所爲ニ依リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其補充又ハ修繕ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ

第三十八條　加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ之ヲ貸與スヘカラス

第三十九條　加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ移轉シ又ハ其裝置法ヲ變更シ若ハ之ヲ分解スヘカラス但水火其他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出テタル場合ハ此限ニ在ラス

加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ニ他ノ線條、機械等ヲ連結スヘカラス

第四十條　加入者電話使用料、附加使用料及電話料ヲ規定ノ期日マテニ納付セサルトキ又ハ第三十七條ノ補修費ヲ辨償セサルトキハ其滯納ノ期間通話ヲ停止スヘシ

加入者前條第一項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ故ナク第三十五條ノ點檢ヲ拒ミタルトキハ七日以内ノ期間通話ヲ停止スルコトアルヘシ

第四十一條　加入者第三十八條ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項ニ據リ通話ヲ停止セラレタル日ヨリ三十日以内ニ滯納ノ金額ヲ納付セサルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スヘシ

加入者第三十九條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第二項ニ據リ一年三回以上通話ヲ停止セラレタルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第四十二條　前條ニ據リ加入ヨリ除名セラレタル者ハ其除名ノ日ヨリ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ同一ノ電話交換局ニ加入申込ヲ爲スヲ得ス

第四十三條　電話交換局ハ電話交換ヨリ生スル一切ノ事故ニ對シ其責ニ任セス

第六章　附則

第四十四條　此規則施行前ニ開通シタル電話機及電鈴ノ使用料ハ明治三十一

年三月三十一日マテ倘明治二十三年遞信省令第八號同年遞信省令第十三號明治二十五年遞信省令第九號明治二十九年遞信省令第十二號及明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則第十三條ノ金額ニ據ル

第四十五條　明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ニ據リ加入シタル加入者ハ第十一條及第十二條ノ期限ニ拘ハラス明治三十一年三月三十一日マテニ加入取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　此規則施行前ニ加入申込ヲ爲シタル者ノ電話開通ノ順序ハ工事上已ヲ得サル場合ニ於テハ明治三十一年三月三十一日マテニ開通ノモノヲ限リ其申込ノ順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第四十七條　明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

（第一號書式）

加入申込書

私儀電話交換規則ニ遵ヒ何地電話交換ニ加入致度仍テ左ニ電話機設置ノ場所ヲ記載シ（別紙承諾書相添ヘ）此段申込候也

年月日　住所職業　何某㊞

何電話交換局御中

一電話機設置場所　何市（郡區）何町（村）何番地何々家屋

但家屋所有者ハ何某ニ有之候

（第二號書式）

承諾書

今般貴殿ニ於テ何地電話交換ニ加入ノ爲メ私所有ノ何市（郡區）何町（村）何番地何々家屋ニ電話機設置ノ趣ハ私ニ於テ故障無之候也

年月日　住所　家屋所有者　何某㊞

何某殿

（第三號書式）

機械設置場所變更請求書

一電話加入申込順番（電話番號）

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成（右電話加入ノ）電話機（卓上電話機又ハ電鈴）（增設電話機、增設卓上電話機又ハ增設電鈴）ヲ左記ノ場所ニ變更（移轉）致度此段及請求候也

住所職業　何某㊞

年月日

何電話交換局御中

一機械設置場所　（何市（郡區）何町（村）何番地何何家屋又ハ何所）

但家屋所有者ハ何某ニ有之候

（第四號書式）

卓上電話機請求書

一電話加入申込順番（加入申込書ト同時ニ差出ストキハ番號ヲ記載スルヲ要セス）

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成電話機ヲ卓上電話機ニ致度此段及請求候也

住所職業　何某㊞

年月日

何電話交換局御中

（第五號書式）

電話機變更請求書

一電話番號

私儀右電話加入ノ（右電話加入ノ電話機同線中ニ增設シタル）卓上電話機（普通電話機）ヲ普通電話機（卓上電話機）ニ變更致度此段及請求候也

住所職業　何某㊞

年月日

何電話交換局御中

（第六號書式）

機械增設請求書

一電話加入申込順番（電話番號）（加入申込書ト同時ニ差出ストキハ番號ヲ記載スルヲ要セス）

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成（右電話加入ノ）電話機同線中ニ電話機（卓上電話機又ハ電鈴）何箇增設致度此段及請求候也

住所職業　何某㊞

年月日

何電話交換局御中

（第七號書式）

增設機械撤去請求書

一電話番號

私儀都合ニ依リ右電話加入ノ電話機同線中ニ增設シタル電話機（卓上電話機又ハ電鈴）何箇ヲ撤去致度此段及請求候也

住所職業　何某㊞

年月日

何電話交換局御中

（第八號書式）

加入申込取消請求書

私儀都合ニ依リ右電話加入申込ヲ取消致度此段及請求候也

住所職業　何某㊞

年月日

何電話交換局御中

（第九號書式）

加入取消請求書

一電話番號

私儀都合ニ依リ何年何月何日限リ右電話加入ヲ取消致度此段及請求候也

住所職業　何某㊞

年月日

何電話交換局御中

（第十號書式）

加入讓渡請求書

第何番電話加入者　何某

右ノ者今般都合ニ依リ右電話加入ヲ何某ニ讓渡度御許可ノ上ハ讓受人ニ於テ電話交換規則ニ遵ヒ加入者タルノ責務ヲ引受可申仍テ當事者連署ヲ以テ此段及請求候也

住所職業

年月日　讓渡人　何某㊞（加入者何某管理人又ハ何々）

住所職業

讓受人　何某㊞

何電話交換局御中

（第十一號書式）

加入繼承請求書

第何番電話加入者　何某

右ノ者今般何々ニ付右電話加入ヲ私ニ於テ繼承致度御許可ノ上ハ電話交換規則ニ遵ヒ加入者タルノ責務ヲ引受可申仍テ別紙證明書相添ヘ此段及請求候也

住所職業

年月日　繼承人　何某㊞

何電話交換局御中

遞信省令第三十二號

明治三十年十二月遞信省令第三十一號電話交換規則第二十九條ノ料金額ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

一　加入登記料及電話使用料

地名	加入登記料	電話使用料年額
東京	金十五圓	金六十六圓
大阪	金十五圓	金六十六圓
京都	金十圓	金五十四圓
橫濱	金十圓	金五十四圓
神戶	金十圓	金五十四圓
名古屋	金十圓	金五十四圓
堺	金五圓	金四十八圓

二　附加使用料

一特別加入　年額（特別加入區域内ノ町程一町マテ每ニ）　金二圓

但町數ノ計算方ハ普通加入區域ヲ距ル電話線路ノ町程ト最近道路ノ町程トヲ比較シ何レカ其距離ノ短キモノニ據ル

一卓上電話機　同　一箇每ニ　金六圓

一增設機械　普通電話機　同　同　金十二圓

卓上電話機　同　同　金十八圓

電鈴　同　同　金三圓

三　電話料

一同一電話加入區域内ハ一通話時マテ每ニ　金十錢

一兩電話加入區域間ハ一通話時マテ每ニ左表ノ如シ

從＼至	橫濱
東京	金二十錢
橫濱	

從＼至	大阪	堺	神戶
京都	金二十錢	金二十錢	金二十五錢
大阪		金十五錢	金二十錢
堺			金二十錢
神戶			

四　電話線接續料（特別加入區域内ノ町程一町マテ每ニ）　金十圓

但町數ノ計算方ハ特別加入區域内ニ於ケル新設電話線路ノ町程ト普通加入區域ヲ距ル最近道路ノ町程トヲ比較シ何レカ其距離ノ短キモノニ據ル

五　機械移轉料

一同一邸宅構内ノ移轉　金二圓

一同一邸宅構内ニ於テ電鈴及附屬物品ノミノ移轉　金一圓

一他ノ邸宅構内ヘ移轉　金十五圓

遞信省令第三十三號

電話依託電報規則左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

電話依託電報規則

第一條　電話加入者ハ別ニ指定スル郵便電信局又ハ電信局ニ豫メ屆出テ其使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第二條　電話依託電報ハ普通辭又ハ隱語ノ内國和文電報ニ限ルヘシ

第三條　電話依託電報ヲ發受シタル者ハ電報依託料トシテ電報一通每ニ金五錢ヲ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ

第四條　電話依託電報ノ料金及電報依託料ニ充テタル郵便切手代ハ一箇月分ツヽ取纏メ通貨ヲ以テ第一條ノ郵便電信局又ハ電信局ノ指定スル場所及期日内ニ之ヲ納付スヘシ

第五條　前條ノ料金ヲ納付セサル電話加入者ハ此規則ニ據リ電報ヲ發受スルコトヲ得ス

○告示

大藏省告示第七十九號

明治三十一年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテ稅關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル内外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム

明治三十年十二月一日　大藏大臣　伯爵松方正義

内外貨幣比較表

外國貨幣		日本金貨
英吉利	一ポンド	九圓・七六三
獨逸	一マーク	四七八
北米合衆國	一ドルラル	二・〇〇六
佛蘭西	一フランク	三八七
瑞西	一フランク	三八七
白耳義	一フランク	三八七
伊太利	一リラ	三八七
丁抹	一クローン	五三八
瑞典	一クローン	五三八
諸威	一クローン	五三八
和蘭	一ギルドル	八〇六
西班牙	一ペセタ	三八七
葡萄牙	一ミルリー	二・一六八
土耳其	一ピアストル	〇八八
澳地利、匈牙利	一クローネ	四〇七
英領印度	一ルーピー	六五三
露西亞	一ループル	一・一〇〇
清國	上海一兩 天津一兩	一・二六二 一・三三九
墨西哥	一ドルラル	九五三
馬尼剌	一ドルラル	九八九

陸軍省告示第二十一號

私設鐵道乘車手續左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日　陸軍大臣　子爵高島鞆之助

私設鐵道乘車手續

第一條　私設鐵道條例第二十一條ニ依リ陸軍軍人軍屬私設鐵道會社ノ汽車ニテ往復スル者及物品ヲ輸送スルトキハ條末ニ掲クル樣式ノ證券ヲ附與スヘシ

第二條　此證券ハ軍隊官衙學校ニ於テ調製附與スルモノトス

第三條　軍人軍屬ヘ附與スル所ノ乘車證券軍人ハ上長官以上上等室士官准士官中等室下士以下下等室軍屬ハ高等官五等以上上等室同六等以下中等室判任官及雇員傭人ハ下等室ヲ以テ定規トス然レトモ時宜ニ依リ本人ノ望ニ任セ等級ヲ變更スルモ妨ケナシ但本文ノ如ク上中下ノ等級ヲ定ムト雖各室ノ設ケナキ列車ニ在テハ證券面ノ上等ヲ中等ニ中等ヲ下等室ニ充ツルハ時宜ニ依ル

第四條　乘車證券ハ一名毎ニ之ヲ附與ス但一時數名旅行スルトキハ上中下等ノ各室ニ乘ルヘキ人名ヲ列記シ其上級者ニ附與ス若シ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ記載シ添付ス

一時數種ノ物品ヲ輸送スルトキ證券裏面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ物名、箇數、斤量ヲ記載シ添付ス

第五條　乘車證券ハ某地ニ往復スル者或ハ巡廻各地ニ亙リ汽車ノ乘替ヲ要スル者ノ如キハ其度數ヲ量リ豫メ數葉ヲ附與スルコトヲ得

但不用トナリタルトキハ返附スルモノトス

第六條　水火盜難等ノ爲メ證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルトキハ其近傍陸軍ノ官衙又ハ軍隊ニ就キ請求スルコトヲ得

第七條　無賃携帶スルヲ得ヘキ手荷物ノ定限ハ尋常乘客ト同樣タルヘシ其限外ノ分ハ定價ノ運賃ヲ拂フヘキモノトス

第八條　陸軍新兵入營ノトキハ本手續ニ依リ乘車スルコトヲ得

第九條　在鄕軍人及補充兵召集ノ場合ニ在テハ證券ヲ用ヒス召集令狀ヲ示シテ減價乘車スルコトヲ得

用紙適宜

表

二寸五分

第　號　自何地　至何地

乘車證

明治何年何月何日　部隊名

部隊印

部隊割印

此證券使用期限ハ記載ノ日ヨリ何日間トス

此證券ハ賃金ノ半額（普通賃金）ト共ニ會社ニ交付スルモノトス

裏

上（中）（下）等　官　姓名

馬匹　何頭

又ハ物名箇數斤量

當分ノ內從來使用ノ證券ヲ混用ス

遞信省告示第三百五十四號

尾張國名古屋市ニ電話交換局ヲ置キ名古屋電話交換局ト稱ス

但業務開始ノ期日ハ別ニ之ヲ告示ス

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

遞信省告示第三百五十五號

和泉國堺市ニ電話交換支局ヲ置キ大阪電話交換局堺支局ト稱ス

但業務開始ノ期日ハ別ニ之ヲ告示ス

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

遞信省告示第三百五十六號

名古屋電話交換局及大阪電話交換局堺支局ニ於テハ當分ノ內加入申込書ヲ受理セス

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

遞信省告示第三百五十七號

電話交換局及電話交換支局ノ電話加入區域左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

局名	普通加入區域	特別加入區域
東京	東京市	荏原郡ノ內品川町、大井村、入新井村、大森村、大崎村、平塚村及目黑村 豐多摩郡ノ內澁谷村、千駄ケ谷村、代々幡村、內藤新宿、中野村及落合村 北豐島郡ノ內高田村、長崎村、巣鴨村、巣鴨町、板橋町、瀧野川村、王子村、日暮里村、尾久村、三河島及南千住町 南足立郡ノ內千住町及綾瀨村 南葛飾郡ノ內南綾瀨村、隅田村、寺島村、大木村、吾嬬村、龜戸村、大島村及砂村
大阪	大阪市	東成郡 但依羅村、住吉村、墨江村、敷津村及安立町ヲ除ク 西成郡 三島郡ノ內吹田村及千里村 川邊郡ノ內尼崎町
京都	京都市	愛宕郡ノ內野口村、大宮村、鞍馬口村、下鴨村、田中村及白川村 宇治郡ノ內山科村 紀伊郡ノ內深草村、伏見町、竹田村及東九條村 葛野郡ノ內大內村、七條村、朱雀野村及衣笠村
横濱	横濱市 久良岐郡ノ內戸田町及中村 橘樹郡ノ內神奈川町大字神奈川、青木及芝生	橘樹郡ノ內神奈川町（大字神奈川、青木及芝生ヲ除ク）、宮川村、保土ケ谷町、子安村及生見尾村 久良岐郡ノ內大岡川村、根岸村、本牧村、屛風浦村及金澤村大字富岡
神戸	神戸市	武庫郡ノ內西灘村、都賀濱村、六甲村、御影町、住吉村及須磨村
名古屋	名古屋市 愛知郡ノ內熱田町	愛知郡ノ內鍋屋上野村、田代村、千種村、廣路村、御器所村、古澤村、瑞穗村、呼續町、寶田村、八幡村、笈瀨村、那古野村及鷹場村 西春日井郡ノ內枇杷島町、西枇杷島町、金城村、庄內村、清水町、杉村、萩野村及六郷村
堺	堺市	東成郡ノ內依羅村、住吉村、墨江村、敷津村及安立町 泉北郡ノ內五箇莊村、向井村、三寶村、舳松村、中百舌鳥村、西百舌鳥村、踞尾村、湊村、神石村、濱寺村及凰村

遞信省告示第三百五十八號

電話依托電報ヲ發受スル郵便電信局又ハ電信局左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

電話加入區域	郵便電信局又ハ電信局名
東京	東京郵便電信局
大阪	大阪郵便電信局
京都	京都郵便電信局
横濱	横濱郵便電信局
神戸	神戸郵便電信局
名古屋	名古屋郵便電信局
堺	堺電信局

遞信省告示第三百五十九號

電話所電話通信時間左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日　遞信大臣　子爵野村靖

一三月一日ヨリ十月三十一日マテ
午前六時ヨリ午後十時マテ

一十一月一日ヨリ翌年二月末日マテ
午前七時ヨリ午後十時マテ

○敍任及辭令

○明治三十年十一月三十日

敍正三位	從三位勳一等男爵	西德二郎
敍正三位	從三位勳一等男爵	山田信道
敍正三位	正四位勳三等	濱尾新
敍正五位	從五位	荒川義太郎
敍正五位	正六位	千頭清臣
敍正五位	從六位勳六等	河野主一郎
敍從五位	正六位勳五等	藤田嗣章
敍從五位	正六位勳五等	吉井茂則
敍從五位	正六位勳六等	財部羌
敍從五位	正六位勳五等	江口襄
敍從五位	子爵	本多忠彥
敍從五位		山尾三郎
敍正六位	從六位	栗本東明
敍正六位	從六位	田代正
敍正六位	從六位	坪野平太郎
敍正六位	從六位勳六等	大井才太郎
敍正六位	從六位	野村龍太郎
敍正六位	從六位勳五等	淺野應輔
敍從六位	正七位	只野成重
敍從六位	正七位勳六等	石丸重美
敍從六位	正七位勳六等	宇都宮貫一
敍從六位	正七位勳六等	松永武吉
敍從六位	正七位	小山友直
敍從六位	正七位	國澤新兵衞
敍從六位	正七位勳六等	伊藤弘
敍正七位	從七位	住田昇
敍正七位	從七位	中村五六
敍正七位	從七位	吉田新之助
敍正七位		大須賀次郎
敍正七位		下平用彩
敍正七位		山川信次郎
敍正七位		栗原永之助
敍正七位		渡邊芳太郎
敍正七位		石川一
敍從七位	正八位	桑原護一
敍從七位		杉森此馬
敍從七位		志田鉀太郎
敍從七位		今井彥三郎
敍從七位		佐々木多門
敍從七位		山崎直方
敍從七位		安田篤
敍從七位		井上恆二
敍從七位		枝光寅太郎
敍從七位		小谷重
敍從七位		中牟田五郎
敍從七位		飯田精一
敍從七位		深町錬太郎
敍從七位		松木幹一郎
敍從七位		小林軍雄
敍從七位	勳八等	宇田洋五郎
敍從七位		久本爲藏
敍從七位		加藤順次郎
敍從七位		田中武雄
敍從七位	勳八等	波木金太郎
敍從七位	勳七等	小島正勝
敍從七位	勳八等	山根常
敍從七位		富村轍彌
敍從七位		濱島温忠
敍從七位	勳八等	小田貴雄
敍正八位	從八位	安達安
敍正八位		青山正夫
敍正八位		黑田岩之助
敍正八位		三竹欽五郎
敍正八位		堀義太郎
敍正八位		横山榮次
敍正八位		小山作之助
敍正八位		岡村幸一
敍正八位		柴田知行
敍正八位		前田俊雄
敍正八位		關根汀二
敍正八位		山賀成亮
敍正八位		吉川一雅
敍正八位		多田純三
敍正八位		戸倉能利
敍正八位		眞田民也
敍正八位		平野英一
敍正八位		手塚太郎

敍正八位　勳七等　清水　勇精
敍正八位　勳七等　樋野　得三
敍正八位　大島　甚作
敍正八位　井上　良温
任御料局技師　敍七等　非職林務官從七位　小寺　定職
任御料局技師　敍八等　御料局技師試補　野呂　貞一郎
任御料局技師　敍八等　御料局技師試補　佐藤　四郎太
任御料局技師　敍八等　御料局技師試補　大島　弘次郎
任陸軍歩兵大尉　陸軍歩兵中尉從七位　平尾　乙作
任陸軍歩兵大尉　陸軍歩兵中尉從七位勳六等　岩本　宗太郎
任陸軍歩兵大尉　陸軍歩兵中尉從七位勳六等　武久　三保三郎
任陸軍歩兵大尉　陸軍歩兵中尉從七位勳六等　野崎　平次郎
任陸軍歩兵大尉　陸軍歩兵中尉從七位勳六等　馬渡　秀雄
任陸軍砲兵大尉　陸軍砲兵中尉從七位勳六等　川崎　太郎
任陸軍砲兵大尉　陸軍砲兵中尉從七位勳六等　加藤　義雄
任澎湖廳長　退職判事正五位勳六等　富田　禎二郎
敍高等官三等　澎湖廳長正五位勳六等　富田　禎二郎
（各通）
正六位勳六等　財部　羌
特旨ヲ以テ位一級被進　退職検事正七位勳六等　伊藤　弘
特旨ヲ以テ位記ヲ賜フ　内舍人　井上　良温
御料局札幌支廳在勤ヲ命ス　御料局技師　小寺　定職
御料局技師　野呂　貞一郎
（各通）
御料局静岡支廳在勤ヲ命ス　御料局技師　佐藤　四郎太
御料局盛岡事務所長ヲ命ス（以上十一月三十日宮内省）　御料局技師　大島　弘次郎
加奈太東部地方兼轄ヲ命ス　一等領事　能勢　辰五郎
賜一級俸　公使館一等書記官　姉小路　公義
米國在勤ヲ免ス　公使館一等書記官　姉小路　公義
待命中本俸三分ノ一ヲ賜フ（以上十一月三十日外務省）　公使館一等書記官　姉小路　公義
陸軍歩兵中尉　上田　太郎
陸軍歩兵中尉　鈴木　重行
（各通）
陸軍歩兵中尉　林　長
陸軍歩兵中尉　古木　秀太郎
陸軍歩兵中尉　横田　佐吉
賜一等給
免本職補臺灣守備歩兵第二聯隊中隊長　歩兵第五聯隊中隊長陸軍歩兵大尉　岐部　熊雄

免本職補臺灣守備歩兵第四聯隊中隊長　歩兵第十一聯隊中隊長陸軍歩兵大尉　河南　環
歩兵第二十二聯隊中隊長陸軍歩兵大尉　水原　熊三
免本職補臺灣守備歩兵第五聯隊中隊長
免本職補臺灣守備歩兵第五聯隊中隊長　濱田聯隊區副官陸軍歩兵大尉　工藤　才次郎
補歩兵第四十三聯隊中隊長　陸軍歩兵大尉　武久　三保三郎
補歩兵第五聯隊中隊長　陸軍歩兵大尉　馬渡　秀雄
補歩兵第十一聯隊中隊長　陸軍歩兵大尉　野崎　平次郎
補歩兵第二十二聯隊中隊長　陸軍歩兵大尉　岩本　宗太郎
免本職補野戰砲兵第三聯隊中隊長　野戰砲兵第二聯隊附陸軍砲兵大尉　加藤　義雄
免本職補近衛野戰砲兵聯隊中隊長　近衛野戰砲兵聯隊附陸軍砲兵大尉　川崎　太郎
臺灣守備歩兵第四聯隊附陸軍歩兵中尉　坂口　義正
免本職補臺灣守備歩兵第四聯隊大隊副官
臺灣守備歩兵第五聯隊附陸軍歩兵中尉　若井　敬
（各通）
臺灣守備歩兵第五聯隊附陸軍歩兵中尉　松岡　己熊
免本職補臺灣守備歩兵第五聯隊大隊副官
臺灣守備歩兵第六聯隊附陸軍歩兵中尉　石井　彌四郎
免本職補臺灣守備歩兵第六聯隊大隊副官　横山　富士太郎
歩兵第一聯隊附陸軍歩兵少尉
（各通）
歩兵第二聯隊附陸軍歩兵少尉　野本　璿
免本職補臺灣守備歩兵第一聯隊附
免本職補臺灣守備歩兵第二聯隊附　歩兵第四聯隊附陸軍歩兵少尉　武田　正助
免本職補臺灣守備歩兵第三聯隊附　歩兵第三十六聯隊附陸軍歩兵少尉　牧　信次郎
歩兵第三十七聯隊附陸軍歩兵中尉　小栅　治三郎
（各通）
歩兵第九聯隊附陸軍歩兵少尉　伏木　德太郎
歩兵第十聯隊附陸軍歩兵少尉　近藤　龍太
免本職補臺灣守備歩兵第四聯隊附
免本職補臺灣守備歩兵第一聯隊附　近衛歩兵第一聯隊附陸軍歩兵少尉　奥平　俊藏
休職被仰付（以上十一月二十九日陸軍省）　歩兵第八聯隊附陸軍三等軍醫　高村　鐵五郎
（各通）
陸軍憲兵大尉　岩井　忠直
陸軍工兵大尉　諏訪　親良
明治三十年十二月ヨリ一箇年間留任被仰付
陸軍歩兵大尉　合川　政義
陸軍歩兵大尉　武部　敦光
陸軍歩兵大尉　中路　清儀
陸軍歩兵大尉　中村　邦平
陸軍騎兵大尉　平佐　眷弼
陸軍砲兵大尉　鈴木　正近
陸軍輜重兵大尉　春木　源三郎
陸軍歩兵中尉　岩井　勘六
（各通）
陸軍歩兵中尉　大江　保

陸軍歩兵中尉　岡崎　平次郎
陸軍歩兵中尉　岩田　恆
陸軍歩兵中尉　柴　豐彦
陸軍歩兵中尉　山田　喜八
陸軍歩兵中尉　沼田　團太郎
陸軍歩兵中尉　吉田　錄郎
陸軍歩兵中尉　勝田　太郎
陸軍歩兵中尉　椁木　耕一
賜一等給（以上十一月三十日同）
賜八級俸（十一月三十日海軍省）　海軍技師　櫻井　小太郎
依願免司法官試補（十一月三十日司法省）　司法官試補　鈴木　直太郎
六級俸下賜　鐵道技師　岸　金三郎
鐵道技師　岸　金三郎
八王子鐵道作業局出張所勤務ヲ命ス（以上十一月二十七日遞信省）
非職ヲ命ス（十一月二十九日同）　鐵道技師　安久津　成雅

○宮廷錄事

○拜謁　軍艦富士回航委員トシテ曩ニ英國ヘ出張ノ海軍少佐齋藤實、同津田三郎、海軍軍醫少監桑原莊吉、海軍大尉野間口兼雄、海軍大主計山田昌壽、海軍大機關士兼常猪三、海軍少尉吉岡範策、同齋藤七五郎、海軍少機關士宮川邦基ハ今般歸朝ニ附キ去月三十日午前十時三十分拜謁仰付ケラレタリ

○彙報

○官廳事項

○官吏發著

曩ニ京都ヘ出張ノ内匠寮技師木子清敬ハ去月二十九日歸京セリ

曩ニ出京ノ大阪衞生試驗所長衞生試驗所技師辻岡精輔ハ去月二十六日出發歸任●曩ニ出京ヲ命セラレタル第六區土木監督署長土木監督署技師青木元五郎ハ同二十九日上京セリ

大阪葉煙草專賣所長熊崎寬良ハ去月二十八日、茂木葉煙草專賣所長松浦正重、大田原葉煙草專賣所長池田日升三、須賀川葉煙草專賣所長中島正四郎、秦野葉煙草專賣所長高畑千畝ハ同二十九日孰モ上京セリ

曩ニ大機動演習地ヘ出張ノ歩兵第二十四旅團長福島陸軍少將ハ去月十九日、同上ノ下ノ關要塞司令官櫻井陸軍少將、歩兵第十一旅團長伊瀨知陸軍少將ハ同二十一日、同上ノ歩兵第九旅團長眞鍋陸軍少將ハ同二十四日、管下巡視ノタメ出張ノ歩兵第十八旅團長山内陸軍少將ハ同二十六日孰モ歸著●曩ニ輜重兵監ノ職務ヲ以テ大機動演習地ヘ出張ノ憲兵司令官原田陸軍少將ハ同二十七日、上京中大機動演習地ヘ出張ノ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長立見陸軍少將ハ同二十八日、元臨時陸軍運輸通信部長ノ職務ヲ以テ臺灣ヘ出張ノ築城部本部長陸軍工兵大佐石本新六ハ同二十九日孰モ歸京セリ

靜岡縣下ヘ出張ノ水產調査所技師岸上鎌吉ハ去月二十五日、栃木縣下ヘ出張ノ農商務技師西山省吾ハ同二十六日孰モ歸京●上京ヲ命セラレタル種馬牧場技師水原勝之助ハ同日著京●熊本大林區署長ヲ命セラレタル林務官中牟田五郎ハ同二十七日出發赴任セリ

○神戸駐在祕露國副領事御認可　横濱駐在祕露國領事代理オスカル、ハイネマンハ今般神戸駐在同國副領事ニ任セラレタル旨通知アリタルニ附キ去月二十日其職務執行ニ對スル御認可狀ヲ發セラレタリ

○文官高等試驗　文官高等試驗ハ本年七月文官高等試驗委員長ノ公告シタル所ニ依リ施行シ去月二十四日完了セリ豫備試驗ノ論文ニ關聯スル迅速作文試驗ハ十月一日、本試驗ノ筆記試驗ハ十月十五日ヨリ同十九日マテニ本試驗ノ口述試驗ハ去月十五日ヨリ同二十四日マテニ之ヲ施行セリ

文官高等試驗ノ出願者ハ三百十五人ニシテ論文試驗ヲ受ケタル者二百五十九人内論文試驗ニ及第セル者百三十六人又迅速作文試驗ニ及第セル者九十五人、本試驗ノ筆記試驗ヲ受ケタル者百四十六人内及第セル者八十六人、本試驗ノ口述試驗ヲ受ケタル者八十五人内及第シ合格證書ヲ授與セシ者五十四人ニシテ其問題左ノ如シ但シ口述試驗ノ問題ハ之ヲ略ス

論文試驗問題

憲法

少數代表ノ制度ヲ論ス

刑法

正犯從犯及ヒ教唆者ノ性質上ノ差異ヲ論ス

民法

後見ノ性質及ヒ後見人ノ任務ヲ論ス

行政法

公權ト私權トノ區別ヲ論ス

經濟學

信用制度ノ發達ヲ歷史的ニ論ス

國際法

國際公法ノ性質ヲ論ス

論文ニ關聯スル迅速作文試驗問題

憲法

選擧區ノ廣狹ハ少數代表ト如何ナル關係ヲ有スルヤ

刑法

甲者乙者ヲ教唆シテ自己（甲者）ノ家屋ニ放火セシメタリ甲乙兩者ノ處分如何

民法

後見人ハ一人ニ限ルヘキモノナルヤ又ハ數人アルコトヲ許スヘキモノナルヤ假リニ數人アルコトヲ許スヘキモノトスルトキハ總員一致スルニ非レハ後見ノ任務ヲ行フコトヲ得サルヤ

行政法

公權私權ノ區別ニ關スル學說ヲ批評セヨ

經濟學

「シュルチェデーリッチ」信用組合ト「ライファイゼン」信用組合トノ利害得失ヲ比較說明スヘシ

國際法

國際公法ノ淵源如何

本試驗ノ筆記試驗問題

憲法

第一問

臣民ノ權利義務ノ性質ヲ論スヘシ

戰時若ハ事變ノ場合ニ於ケル大權ノ行働ヲ論スヘシ

第二問

司法權ノ範圍ヲ論スヘシ

第三問

豫算ト命令トノ關係ヲ論スヘシ

刑法

第一問

日本人外國ニ於テ内國法ノ輕罪ニ當ル罪ヲ犯シ其刑ノ執行ヲ了リ内國ニ歸リタル場合ニ於テ内國裁判所ハ同一犯人ヲ同一事件ニ付罰スルコトヲ得ルヤ

第二問
甲アリ某縣知事ノ名ヲ以テ乙ニ對スル勾留狀ヲ僞造シ知事ノ職印ヲモ僞造シテ之レニ押シ乙ノ家ニ到リ其令狀ヲ示シ恐喝シテ示談金百圓ヲ受取リタリ甲ノ處分如何

民法
第一問
永小作權ト土地ノ賃借權トノ差異ヲ説明スヘシ
第二問
注意及ヒ過失ノ程度ニ關スル原則ヲ説明スヘシ
第三問
債權ノ讓渡ト債權者ノ交代ニ因ル更改トノ差異ヲ説明スヘシ

行政法
第一問
官府ハ法人ナリヤ否併セテ官府ノ權限ト謂フコトヲ説明セヨ
第二問
警察ノ意義ヲ示シ其種類及範圍ヲ概論セヨ
第三問
公ノ組合體及公ノ營造物ヲ定義シ其種類ヲ掲ケテ説明セヨ

經濟學
第一問
資本ノ供給ヲ潤澤ナラシムヘキ方法ヲ示スヘシ
第二問
貸銀基金説ノ當否ヲ論定スヘシ
第三問
外國爲替ノ利益不利益ノ差ノ由テ起ル所以ト其矯正ノ方法トヲ説明スヘシ

國際法
第一問
國家自衞權ノ性質及ヒ範圍ヲ論述スヘシ
第二問
中立國ノ領海内ニ於テ交戰國軍艦ノ遵守スヘキ義務如何

財政學
第一問
財政學ノ國家及ヒ經濟學ニ於ケル關係ヲ示スヘシ
第二問
租税ト手數料トノ區分ヲ説明スヘシ
第三問
非常費ト補充費トヲ辯明シ之ニ關スル本邦ノ制度ヲ説明スヘシ

刑事訴訟法
第一問
犯罪處分ニ付キ法律上司法警察官ノ爲シ得ヘキ權限如何
第二問
法律上代理人獨立シテ控訴シタル場合ニ
(一)被告人出席シテ法律上ノ代理人闕席シタルトキ
(二)被告人闕席シテ法律上ノ代理人出席シタルトキ
控訴裁判所ハ如何ナル裁判ヲ爲スヘキカ

民事訴訟法
第一問
訴ノ取下ノ效果如何
第二問
當事者ノ一方カ辯論期日ニ闕席シタルトキハ如何ナル闕席判決ヲ爲スヘキヤ

商法
第一問
合名會社契約ト同會社ニ關スル商法ノ規定ト牴觸スルトキハ其社員間ノ關係ハ會社契約ニ依リ之ヲ定ムヘキモノナルヤ否ヲ説明スヘシ
第二問
手形ニ於ケル裏書讓渡禁止ノ記載ハ如何ナル效力ヲ有スルヤ

○官吏改名　通信事務官補橋本健祐ハ今般一雄ト改名セリ

司法

○死刑執行　鳥取縣氣高郡日置谷村大字善田村平民履稼吉田喜代藏ハ强盗殺人ノ科ニ因リ本年七月六日函館控訴院ニ於テ死刑ノ宣告ヲ受ケシ處去月二十四日執行セラレタリ

○辯護士名簿登錄取消　大阪地方裁判所所屬辯護士大原敬藏、同安田勝次郎、新潟地方裁判所所屬辯護士藍澤惟熈ノ請求ニ依リ孰モ所屬裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ノ登錄ヲ取消セリ

褒賞

○賜褒章者死去　曩ニ海防費ヲ獻納セシ廉ヲ以テ黄綬褒章ヲ賜ハリタル神奈川縣横濱市南仲通三町目大濱忠三郎ハ本年九月二十五日、公益ヲ興セシ廉ヲ以テ藍綬褒章ヲ賜ハリタル奈良縣宇陀郡室生村植田源十郎ハ同十月一日、公同ノ事務ニ勸勉セシ廉ヲ以テ同褒章ヲ賜ハリタル大阪府三島郡鳥飼村濱口甚太郎ハ同三十一日孰モ死去セリ

陸海軍

○學生退校　陸軍經理學校ニ於テ去月五日軍吏學生左記人員卒業ノ上退校セリ（陸軍省）

陸軍歩兵特務曹長七人、陸軍騎兵特務曹長一人、陸軍砲兵特務曹長一人、陸軍工兵特務曹長一人、陸軍歩兵曹長十八人、陸軍騎兵曹長一人、陸軍砲兵曹長三人、陸軍工兵曹長一人、陸軍輜重兵曹長一人、陸軍火工曹長三人、陸軍一等書記二十六人

○學生卒業　陸軍砲工學校ニ於テ去月二十七日第五期高等科學生卒業證書授與式ヲ擧行シ左記ノ者ニ卒業證書ヲ授與セリ（陸軍省）

野戰砲兵科
陸軍砲兵大尉　菱田菊次郎
陸軍砲兵大尉　河田　正太
陸軍砲兵大尉　垂井巖五郎
陸軍砲兵大尉　山縣保二郎
陸軍砲兵大尉　平瀬　又雄
陸軍砲兵大尉　土方　久路
陸軍砲兵大尉　北山彌三郎
陸軍砲兵大尉　石川政之介

右卒業者中陸軍砲兵大尉菱田菊次郎ハ試驗優等ノ賞トシテ雙眼鏡一箇ヲ下賜セラレタリ

○軍艦發著　軍艦金剛ハ横須賀ニ向ヒ呉ヲ、同嚴島ハ淸水ニ向ヒ神戸ヲ、去月二十九日孰モ拔錨、同高千穗ハ同日伊萬里ヨリ溝香ヘ、同八島及龍田ハ同三十日横須賀ヘ孰モ投錨（海軍省）●英國軍艦「フヰニツキス」ハ同二十二日淡水ヘ投錨（臺灣總督府）●佛國軍艦「デスカルト」ハ神戸ニ向ヒ、露國軍艦「オトワージヌイ」ハ仁川ニ向ヒ孰モ同二十五日長崎ヲ拔錨セリ（長崎縣）

學事

○第三高等學校醫學部卒業證書授與式　第三高等學校醫學部ニ於テ去月二十五日卒業證書授與式ヲ擧行セリ其次第ハ當日午前第十時職員生徒及來賓一同著席本部主事熊谷省三卒業生ニ證書ヲ授與シ了テ卒業生ノ經歷狀況等ヲ報告シ併テ卒業生ニ告クル所アリ次テ來賓ノ祝辭及演説アリ次ニ生徒總代長谷川廉平ノ祝辭、卒業生總代高畠庫文司ノ答辭等アリテ同十一時五十分式全ク畢リ一同退散セリ其卒業者左ノ如シ（文部省）

醫科
徳島縣士族　高島　庫文司
奈良縣平民　奥山　周達
島根縣平民　淺野　賢之助
福岡縣平民　岡崎　淑夫
岐阜縣士族　伴　鎌吉
福岡縣平民　井上　圓造
岡山縣士族　松山　咲二
島根縣平民　龜井　顯二郎
福岡縣平民　楢崎　敬之
岡山縣平民　永山　長三
大分縣平民　桑原　利馬
岡山縣平民　淺羽　春之
兵庫縣平民　木村　源藏
兵庫縣平民　角田　秀雄
岡山縣平民　纐部　壯平
宮崎縣士族　中山　傳九郎
廣島縣平民　秋光　二六
岡山縣平民　佐藤　靜夫
福岡縣平民　加來　惟吉
廣島縣平民　山下　德衞門

京都府平民　中野　忠一郎
廣島縣平民　佐藤　桃朔
岡山縣士族　生野　秀二
岡山縣平民　岸　一太
京都府平民　大江　匡雄
岡山縣平民　赤松　榮太郎
兵庫縣平民　山口　貝一
山口縣士族　河村　鼎
大分縣平民　楠原　正香
福岡縣平民　中野　俊造
岡山縣平民　島山　淳治
徳島縣士族　橋本　猛夫
大分縣平民　松岡　松治
香川縣平民　田村　環
山口縣士族　宮原　脩藏
和歌山縣平民　高山　龍之助
高知縣士族　横矢　重吉
大阪府平民　朝岡　龍太郎
宮崎縣士族　四倉　富城
岡山縣平民　森　光太
山口縣平民　重富　豐作
岡山縣平民　光畑　幸雄
福井縣平民　大賀　正造
岡山縣平民　坪田　旭一
奈良縣平民　谷口　百太郎
和歌山縣平民　田中　恒楠
大分縣平民　秋岡　虎雄
奈良縣平民　小野　彦藏
岡山縣平民　石原　廣四郎
京都府平民　梅原　芳雄
山口縣平民　大谷　熊之進
岡山縣平民　内田　金一郎
廣島縣平民　兒玉　玄吉
山口縣士族　品川　正三
廣島縣平民　前田　大吾
京都府平民　長澤　康人
岡山縣平民　須藤　五百三
岡山縣平民　岸岡　脩吉
新潟縣平民　銀林　重雄
岡山縣士族　藤山　一雄
岡山縣平民　大塚　玗次郎
島根縣平民　太田　寛

第二回水産博覧會錄事

○閉場式　去月三十日第二回水産博覧會閉場式次第左ノ如シ

本日第二回水産博覧會閉場式ニ附キ總裁彰仁親王殿下代理副總裁男爵山田信道午後四時式場ニ臨ミ閉場ノ式ヲ擧行セラル事務官長代理事務官蓁原清風本會ノ顚末ヲ述ヘテ閉場ノ式ヲ擧ケラレンコトヲ請フ副總裁總裁殿下演述文ヲ朗讀シ閉場式ヲ告ケラレ地方長官總代兵庫縣知事大森鍾一祝辭ヲ述ヘ同時二十分式全ク畢レリ（去月三十日午後四時五分在神戸第二回水産博覧會事務局出張所發電報）

通運

○航海認許證書下付　日本郵船株式會社ヨリ同社所有船鎌倉丸ニ對シ航海奬勵法ニ依リ認許證書下付出願ニ附キ審査ノ上去月二十九日同社ニ一箇年間認許證書ヲ下付セリ該船ハ本年九月二十日帝國船籍ニ登錄シタル鋼製汽船ニシテ總噸數六千百二十三噸零三、最强速力十五海里四二ヲ有シ千八百九十六年十二月九日ニ進水セシモノナリ（遞信省）

衞生

○赤痢患者　去月二十八、二十九兩日中各地方ヨリ臨時檢疫局ニ到達シタル赤痢患者數報告左ノ如シ（内務省）

道府縣	患者	死者	本年初發ヨリノ總數	
			患者	死者
北海道	—	—	三三	一四
東京	二	二	七、〇〇〇	二、一二五
京都	一二	三	八一八	二〇五
大阪	四	—	一、一三二	一七六
神奈川	一二	二	六、三一九	一、三三五
兵庫	—	—	六六七	一五八
長崎	三七	四	五一九	八五
新潟	五五	二五	七、四八二	一、七二二
埼玉	四	二	四、一六五	一、二八七
群馬	—	—	五、六七六	一、二五六
千葉	三	三	三、〇〇四	八〇七
茨城	二	一	一、二八四	三六三
栃木	—	—	一、三三九	三五〇
奈良	—	—	一四五	四一
三重	三	一	七六七	一七九
愛知	二	一	二、五六七	五七〇
静岡	四二	一四	六、三二四	一、六九七
山梨	一九	八	九、四九六	二、〇四六
滋賀	一	—	四八九	一三七
岐阜	四	一	一、一八六	三二八
長野	五	二	五、二六二	一、二〇二
宮城	—	—	一、〇三七	二五五
福島	—	—	五二七	八二
巖手	四九	一六	一、〇四四	二一〇
青森	八六	一七	一、三七四	二二四
山形	一	二	一八八	五六
秋田	—	—	七二	一六
福井	—	—	五一二	二〇八
石川	—	一	二四六	八四
富山	—	—	七〇	三一
鳥取	—	—	八三九	二〇四
島根	一三	九	一、六〇三	四九一
岡山	一八	七	一、四七六	四六七
廣島	二九	九	一、八〇一	六三三
山口	二一	六	一、六六五	四二〇
和歌山	四	—	三五五	七四
徳島	一	—	八五八	二六九
香川	一三	一〇	一、九五〇	六四六
愛媛	二八	六	一、九八四	四四五
高知	九	六	五〇九	一〇二
福岡	四	—	九一五	一六二
大分	一三	一	五五〇	一三一
佐賀	—	—	一一四	四五
熊本	八	二	一、一九五	一九九
宮崎	二	—	五七六	九〇
鹿兒島	四	—	一、一七二	二三五
沖縄	—	—	四	—
合計	五一〇	一六一	八八、三一二	二一、八六四

○傳染病患者　東京府外四縣ニ於ケル傳染病患者左ノ如シ

東京府　去月二十八、二十九ノ兩日間ニ届出ノ赤痢患者西多摩郡男二人」腸窒扶私患者神田區男四人、麻布區男一人、本所區男一人、計六人」痘瘡患者京橋區男一人」實布垤利亞患者神田區男一人女二人、京橋區男二人、本郷區男一人、芝區男女各〻三人、淺草區男一人、深川區男一人、西多摩郡女一人、計十五人」合計二十四人（警視廳）

群馬縣　去月十四日ヨリ同二十日ニ至ル一週間ニ届出ノ腸窒扶私患者二十五人死亡二人」實布垤利亞患者十八人死亡六人（群馬縣）

愛知縣　去月二十二日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間ニ届出ノ赤痢患者十四人死亡八人」腸窒扶私患者二十六人死亡五人」實布垤利亞患者二十九人死亡十七人（愛知縣）

岐阜縣　去月二十一日ヨリ同二十七日ニ至ル一週間ニ届出ノ赤痢患者十三人死亡四人」腸窒扶私患者十一人死亡七人」實布垤利亞患者十三人死亡八人（岐阜縣）

秋田縣　去月十四日ヨリ同二十日ニ至ル一週間ニ届出ノ腸窒扶私患者十二人死亡二人」實布垤利亞患者十一人死亡八人」赤痢患者三人死亡二人（秋田縣）

○牛乳業調査　臺南縣ニ於テ調査シタル同縣管下牛乳業ノ事歴左ノ如シ（臺灣總督府）

今ヲ距ルコト二十五年前臺南大北門内城邊（姓不詳）婿ナル者大東門内寡婦媽街林泗ナル者ト共同合資シ婿ノ宅ニ於テ本業ヲ營ミタルヲ以テ嚆矢トス其後十五年ヲ經テ林泗ハ分離シ更ニ自宅ニ開業シ爾來雙方トモ營業セシカ昨二十九年婿ノ一家ハ二人ノ小兒ヲ遺シ孰モ病死セシニ依リ大南門内山仔尾街黄旺丁ナル者之ヲ繼キ二人ノ小兒ヲ傭使シ現今專ラ營業セリ而シテ其飼育スルモノ丁ハ水牛、赤牛牝牡大小合テ三十餘頭其内榨乳ニ供スルモノハ赤牛二頭、水牛十頭ナリ泗ハ牝水牛大小十六頭現ニ榨乳スルモノハ十頭ナリ榨乳量ハ孰モ平均一頭八合ヲ得ヘシ此牛種ハ何處ヨリ傳ハリシカ未タ之ヲ知ル者ナシト雖モ蓋シ清國輸入物ニ外ナラサルヘシ交尾ニ供スルモノハ三歳ノ牝赤牛ト四歳ノ水牛トニシテ年中別ニ交尾期ヲ定メス又飼育者ハ交尾ニ關シ敢テ幫助スル所ナク唯放牧中自然ノ發情ニ任ス姙娠期間ハ十二箇月トス分娩後ノ交尾亦一定ノ時期ナシ榨乳ハ分娩後五六日ヲ經テ著手シ一箇月ノ間牛ハ榨乳シ牛ハ犢ノ飲用ニ充テ以後ハ悉皆榨取シテ販賣ス（此時犢ハ既ニ生草及蕃薯ヲ食スルノ習慣ヲ養成セリ）再産後ノ姙娠ニ係ルモノハ五六箇月ニシテ泌乳ヲ止ム乳量ハ大約初産及二産ハ一日六合乃至一升、三、四、五産ハ一升二合位ニシテ泌乳最盛ノ時トス六産ハ八合、七産ハ四合乃至六合ニ減シ終ニ榨用ニ堪ヘス水牛赤牛共ニ豫メ泌乳ノ多少ヲ知ルノ特徴アリヤ否ハ未タ之ヲ發見セス榨乳ハ早曉一回行フノミ其販賣價格ハ既往現在共ニ大差ナク概ネ一合五錢位トス乳牛ノ飼養法ハ蕃薯及生草等ヲ與フ其量生草百斤、水ハ炎熱ノ候ニ在リテハ一斗五升入ノ桶ニ一日四回稀ニハ少量ノ食鹽ヲ與フルコトアルモ平常ハ牧童ノ乳汁配送後放牧場ニ牽行キテ自由ニ生草ヲ食セシムルモノトス晩景牧場ヨリ歸來レハ舍外ニ繋留シ翌曉其處ニ於テ榨乳ス乳牛ノ價格ハ水牛五歳ノモノ二十餘圓、赤牛四歳ノモノ十六七圓、交尾用ニ供スル水牡牛四歳ノモノ二十圓、赤牡牛三歳ノモノ十五六

圓ナリ乳汁需要者ハ內地人、土人及外國人ニシテ其間賣價ニ差異アルヲ認メス本業ハ創始以來蹉跌ナク年々發達進歩ノ狀況ナリ水牛、赤牛共ニ頗ル頑健ニシテ疾病ニ罹ルコト少ク偶〻此事アルモ素ヨリ獸醫アルナク但シ伯樂ノ如キモノナキニアラサルモ別ニ其力ヲ借ラス當業者自ラ治療シ居レリ創業者ノ榨乳方法ハ初メ林鰇魚ナル者ヨリ學ヒシモノナレトモ鰇魚ハ又誰ヨリ習得タルヤハ之ヲ知ル者ナシ惟フニ當時此地ニ基督教徒（英國人）ノ設立ニ係ル病院アリシヲ以テ彼ニ學ヒシカ將タ往古支那本土ニ行ハレシモノ更ニ此地ニ傳リ來リシカ目下疑問ニ屬ス榨乳者ノ惡弊ニ關シテハ未タ精覈ナル調査ヲ遂ケサレトモ榨乳ノ際不潔ヲ顧ミサルト乳汁ニ井水ヲ混加シテ販賣スルトハ惡弊ノ最タルモノトス依テ之カ取締法ヲ設クルハ衞生上ノ急要タリ今茲ニ昨年中陸軍部內ニ於テ水牛乳ノ分析試驗ヲ爲セシ結果ヲ示セハ左ノ如シ

	比重	溫度	水分	固形分	「カセイン」	蛋白	脂肪	乳糖	灰分	合計
水牛乳	一・〇三四七	三〇・五	八〇・三五〇	一九・一五八	四・六〇六	〇・一七〇	五・八九〇	七・八〇二	〇・六一〇	九九・五〇八

（備考） 分析上乳糖量ハ通常牛乳ヨリ多ケレトモ味ニ於テハ異ナルナク色又同シ但シ甚タ濃厚ニシテ脂肪ノ量ニ富ミ之ヲ黃牛（赤牛ニ同シ）ノ乳味淡泊ナルニ比スレハ頗ル美味ナリ

○雜事

○民籍戸口總數 內務省ニ於テ調査セル昨二十九年十二月三十一日現在道府縣（臺灣ヲ除ク）ノ戸數ハ八百万四千八百四十九戸、人口ハ四千二百七十万八千二百六十四人內男二千百五十六万千二十三人、女二千百十四万七千二百四十一人又族籍ヲ以テ別ツトキハ華族四千五百七十五人內戸主八百八十一人、家族三千六百九十四人、士族二百六万七千九百七十八人內戸主四十三万三千七百十七人、家族百六十三万四千二百六十一人、平民四千[illegible]人內戸主八百万八千五百十四人、家族三千二百六十二万二千二百六十七人、棄兒養子女ト爲ラサル者三千八百二十六人、在監無籍人千二百八十五人トス之ヲ前年同日現在ノ調査ニ比スルニ戸數ニ於テ六万八千八百八十戸、人口ニ於テ四十三万七千六百四十四人內男二十一万五千二百七十三人、女二十二万二千三百七十一人ヲ各〻増加セリ其道府縣別戸口數及年齡別左ノ如シ（昨二十九年十一月十一日本欄內及本年十月十六日內務省告示第六十三號參看）

地方名	本籍人			現住人	現住戸數
	男	女	計		
東京	七三七、九九一	七三〇、六六三	一、四六八、六五四	一、九〇七、一七四	四〇九、二一一
京都	四五七、〇二七	四五七、三一一	九一四、三三八	九五七、七七五	一九〇、一五一
大阪	六四〇、四九九	六四〇、〇四三	一、二八〇、五四二	一、四五六、一七六	二七六、三五〇
神奈川	三七八、五八五	三七五、八六五	七五四、四五〇	八五二、二八三	一四四、七七六
兵庫	八二二、五六三	七九六、二二三	一、六一八、七八六	一、六三一、二四一	三二四、八四八
長崎	三九七、五〇五	三九八、五四〇	七九六、〇四五	八三二、六一六	一五四、七〇四
新潟	八九九、八〇三	八九七、八九二	一、七九七、六九五	一、七三六、四五六	二九〇、三九八
埼玉	五七二、四九三	五七六、八二九	一、一四九、三二二	一、一四七、一三三	一七八、四〇二
群馬	三七三、〇五六	三七六、八六四	七四九、九二〇	七九七、八七〇	一三三、二〇七
千葉	六二六、九三二	六二一、〇一〇	一、二四七、九四二	一、二三九、六六〇	二一〇、七四九
茨城	五五六、五三七	五四五、四三三	一、一〇一、九七〇	一、一〇一、五四〇	一八〇、四七四
栃木	三八〇、二三八	三七九、四六七	七五九、七〇五	七八一、八六四	一二〇、三四九
奈良	二六四、七六五	二六一、七六八	五二六、五三三	五二一、九一八	八九、五五八
三重	四九一、二〇三	四八五、六三五	九七六、八三八	九六三、六六八	一七六、八七七
愛知	七七七、八五一	七七九、二六八	一、五五七、一一九	一、五七七、三二〇	三三〇、八七二
靜岡	五九四、〇八六	五七九、八三九	一、一七三、九二五	一、一六二、六一三	二〇七、三四四
山梨	二四五、一四六	二四五、九〇七	四九一、〇五三	四八九、四一二	八三、二五九
滋賀	三四九、〇九二	三五三、五二五	七〇二、六一七	六八九、七二三	一三一、三六四
岐阜	四九九、九六八	四八一、六三八	九八一、六〇六	九六〇、五〇二	一八一、三二八
長野	六一一、七二一	六〇〇、四六六	一、二一二、一八七	一、二二一、一一三	二二八、六〇三
宮城	四一六、七五六	四〇〇、三三五	八一七、〇九一	八二一、二五七	一二〇、〇七〇
福島	五二一、〇〇二	五〇七、五一二	一、〇二八、五一四	一、〇四一、二九四	一五七、六七〇
岩手	三六一、六三四	三三九、五九七	七〇一、二三一	六九四、八六七	一〇九、一八三
青森	三〇四、三三〇	二八九、五五五	五九三、八八五	五八九、五五七	九一、八四二
山形	四〇七、八八五	四〇〇、九五八	八〇八、八四三	八〇〇、八三一	一一八、七七三
秋田	三九三、七六五	三六一、二六二	七五五、〇二七	七四八、三五八	一二四、二七四
福井	三一五、四一五	三一七、一六三	六三二、五七八	六一九、二七三	一一六、三五六
石川	三八九、七三八	三九二、八〇八	七八二、五四六	七五五、七三四	一四三、八六四
富山	四〇〇、三二七	三八九、一九八	七八九、五二五	七六二、八九二	一四七、一九六
鳥取	二〇九、六一四	二〇四、七七七	四一四、三九一	四一一、五八五	七九、四六〇
島根	三六三、一二〇	三五〇、八六五	七一三、九八五	七〇六、〇二八	一四五、九〇三
岡山	五七七、五九二	五三一、六四四	一、一〇九、二三六	一、一〇〇、九八四	二二〇、三五八
廣島	七一二、三一二	六八八、三七〇	一、四〇〇、六八二	一、三八八、一九三	二七九、五八〇
山口	四八九、四九四	四七八、〇九九	九六七、五九三	九五二、三〇〇	一九二、五八一
和歌山	三三八、〇九〇	三二八、一八五	六六六、二七五	六五一、〇二一	一一九、七二九
德島	三四七、四八一	三四一、三五九	六八八、八四〇	六七五、五七〇	一二二、七八〇
香川	三四八、九一八	三三六、九三〇	六八五、八四八	六七三、三七八	一二七、六五二
愛媛	四九四、二四五	四七八、六七二	九七二、九一七	九六四、〇七九	一八八、〇六二
高知	三一〇、二七二	二九〇、一〇七	六〇〇、三七九	六〇〇、八六五	一二一、九二一
福岡	六六四、二〇〇	六四九、八六九	一、三一四、〇六九	一、三三三、四二三	二三三、三五四
大分	四一三、四九四	四〇九、〇四八	八二二、五四二	八一四、〇六四	一五二、七八七
佐賀	三〇四、八一九	二九七、四〇一	六〇二、二二〇	五九六、二七五	一〇四、七六五
熊本	五五三、五三八	五五八、七三四	一、一一二、二七二	一、一〇八、八〇二	二一四、九〇六
宮崎	二二三、五七二	二一五、七九五	四三九、三六七	四五〇、四一六	八五、一九九
鹿兒島	五三八、五四二	五三七、九五四	一、〇七六、四九六	一、〇六九、七五二	二〇六、三六七
沖繩	二一七、九〇七	二二二、九八二	四四〇、八八九	四四二、八三四	八八、二五三
北海道	二六四、六七七	二四三、八一四	五〇八、四九一	六九八、一四四	一四九、一四〇
總計	二一、五五九、八〇〇	二一、一四七、一七九	四二、七〇六、九七九	四三、四九九、八三三	八、〇〇四、八四九

（備考） 現住人ハ本籍人ノ其府縣外ニ出ツル者卽チ外國行、出寄留、囚人及懲治人、陸海軍在營在艦者及失踪ヲ除算シ他府縣ヨリ入ル者卽チ入寄留、陸海軍在營在艦、囚人懲治人ヲ加算シタル數トス總計ニ於テ本籍人ニ比シ現住人ノ多キハ入寄留及入籍等ノ屆出數出寄留及送籍等ノ屆出數ヨリ多キニ由ル

年齡別	男	女	計
一年	五七四、六五〇	五六四、五七一	一、一三九、二二一
二年	五四三、一〇三	五二六、四七一	一、〇六九、五七四
三年	五一七、四六四	四九九、七四〇	一、〇一七、二〇四
四年	四八七、一〇八	四七五、八五三	九六二、九六一
五年	四八四、二七五	四七一、八五一	九五六、一二六
六年	四三四、五一九	四二五、二六四	八五九、七八三
七年	四五七、九二四	四四六、七二一	九〇四、六四五
八年	四八五、五三九	四七四、一三八	九五九、六七七
九年	四七四、一三〇	四五九、八三八	九三三、九六八
十年	四三五、九七一	四二四、六一四	八六〇、五八五
十一年	四四六、四一五	四三九、三九四	八八五、八〇九
十二年	四三二、〇〇四	四二三、三四七	八五五、三五一
十三年	四三一、六七二	四二四、六六四	八五六、三三六
十四年	四四八、三四八	四四三、三六八	八九一、七一六
十五年	四四一、四七六	四三一、三二七	八七二、八〇三
十六年	四四六、七八七	四四一、〇三九	八八七、八二六
十七年	四三二、九九七	四三三、三八五	八六六、三八二
十八年	四三五、二一五	四二四、四九九	八五九、七一四
十九年	四二九、五二二	四一八、四二四	八四七、九四六
二十年	四一五、八八七	四〇一、八八六	八一七、七七三
二十一年	四三一、五七八	四二一、一〇八	八五二、六八六
二十二年	三九六、二二七	三八六、〇二二	七八二、二四九
二十三年	三八二、六八〇	三七六、〇七一	七五八、七五一
二十四年	三七八、二三八	三七〇、〇五九	七四八、二九七
二十五年	三三三、八六一	三二四、五七六	六五八、四三七
二十六年	三〇八、八五九	三〇〇、五一一	六〇九、三七〇
二十七年	二九七、〇一三	二八八、三〇九	五八五、三二二
二十八年	二九八、六四八	二九〇、七四八	五八九、三九六
二十九年	三四四、一四五	三三〇、四一三	六七四、五五八
三十年	三〇九、六二八	二九九、七八五	六〇九、四一三
三十一年	三〇四、二一二	二九一、三〇二	五九五、五一四
三十二年	三三〇、〇〇三	三一六、三二九	六四六、三三二
三十三年	三一四、六〇一	三〇〇、八六六	六一五、四六七
三十四年	二六六、五五九	二五五、六七三	五二二、二三二
三十五年	二四八、一八八	二三八、四一四	四八六、六〇二
三十六年	二三〇、五七三	二二一、三〇一	四五一、八七四
三十七年	二六三、七四二	二四九、二〇八	五一二、九五〇
三十八年	二六一、一四九	二五二、三四六	五一三、四九五
三十九年	二八四、七九〇	二六五、八六六	五五〇、六五六
四十年	二八三、一九九	二六七、〇六二	五五〇、二六一
四十一年	二七三、八一〇	二五七、四七〇	五三一、二八〇
四十二年	二六九、五〇六	二五二、六九四	五二二、二〇〇
四十三年	二七五、七八六	二五五、七六五	五三一、五五一
四十四年	二六六、八三七	二四九、三九一	五一六、二二八
四十五年	二七一、四〇三	二四九、八五五	五二一、二五八
四十六年	二二九、三〇一	二一六、六八〇	四四五、九八一
四十七年	二四一、二四二	二二六、六四四	四六七、八八六
四十八年	二五八、七二一	二四四、五〇七	五〇三、二二八
四十九年	二四四、二九九	二二七、三八七	四七一、六八六
五十年	二三〇、二三九	二二三、八一八	四五四、〇五七
五十一年	二二二、六七六	一八〇、三九四	四〇三、〇七〇
五十二年	二一九、八二九	二一六、八八四	四三六、七一三
五十三年	二〇四、三九五	一九六、三四六	四〇〇、七四一
五十四年	二〇五、八九五	一九七、五〇八	四〇三、四〇三
五十五年	一七七、一五三	一七〇、六八一	三四七、八三四
五十六年	一八〇、三七八	一七四、二四一	三五四、六一九
五十七年	一六八、六七九	一六四、七八一	三三三、四六〇
五十八年	一五三、六二九	一四九、五〇一	三〇三、一三〇
五十九年	一五九、二七〇	一三八、二四八	二九七、五一八
六十年	一二一、八六一	一一五、九六四	二三七、八二五
六十一年	一三三、五四一	一三六、二三一	二六九、七七二
六十二年	一三〇、八一〇	一三六、四三一	二六七、二四一
六十三年	一一八、三七四	一二三、一〇五	二四一、四七九
六十四年	一一五、九七九	一二五、五九二	二四一、五七一
六十五年	一二三、五八七	一三二、九九二	二五六、五七九
六十六年	一〇八、五四五	一一七、六三五	二二六、一八〇
六十七年	一一五、二〇四	一二一、五三七	二三六、七四一
六十八年	九三、八一九	一〇五、一七三	一九八、九九二
六十九年	九二、四六九	一〇五、一七四	一九七、六四三
七十年	八六、八九〇	九八、二一六	一八五、一〇六
七十一年	七四、二九四	八六、四〇一	一六〇、六九五
七十二年	七三、二九〇	八六、五〇三	一五九、七九三
七十三年	六五、三一九	七七、九一九	一四三、二三八
七十四年	五六、四三三	六八、二六七	一二四、七〇〇
七十五年	五四、六六四	六五、八五九	一二〇、五二三
七十六年	四一、六四九	五三、五五〇	九五、一九九
七十七年	三八、四四二	四九、七三五	八八、一七七
七十八年	三五、二二二	四五、九五〇	八一、一七二
七十九年	二八、三八六	三七、五四〇	六五、九二六
八十年	二一、六六一	三〇、四三七	五二、〇九八
八十一年	一九、五四〇	二七、九四〇	四七、四八〇
八十二年	一五、六一七	二二、六六〇	三八、二七七
八十三年	一三、七〇〇	一八、六七九	三二、三七九
八十四年	一〇、八二二	一六、九五八	二七、七八〇
八十五年	八、四〇九	一三、四七〇	二一、八七九
八十六年	七、一二六	一一、三四四	一八、四七〇
八十七年	五、一六七	八、五一五	一三、六八二
八十八年	三、六〇六	六、四九二	一〇、〇九八
八十九年	三、一七七	五、四二六	八、六〇三
九十年	二、五六〇	四、四八四	七、〇四四
九十一年	一、八八六	三、三七七	五、二六三
九十二年	一、五四八	二、七五〇	四、二九八
九十三年	一、二三五	一、九二九	三、一六四
九十四年	五七四	六四二	一、二一六
九十五年	三二九	四六七	七九六
九十六年	一五七	三〇五	四六二
九十七年	九六	一五六	二五二
九十八年	五二	一一八	一七〇
九十九年	三六	八一	一一七
百年	一〇	六五	七五
百一年	一二	三三	四五
百二年	六	三六	四二
百三年	七	一八	二五
百四年	四	七	一一
百五年	二	四	六
百六年		五	五
百七年	一	一	二
百八年	一	一	二
百九年			二
百十年	一		
百十一年			一
生年不詳	一、三八五	九一八	二、三〇三
總計	二一、五六一、〇二三	二一、一四七、二四一	四二、七〇八、二六四

（備考） 府縣別本籍人ノ數ニ比シ男千二百二十三人、女六十二人、計千二百八十五人ノ多キハ在監無籍人ノ數ヲ算入セシニ由ル

又同年中出生ハ百二十八万二千百七十八人內男六十五万千四百六十八人、女六十三万七百十八人、死亡九十一万二千八百二十二人內男四十六万九千四百八十五人、女四十四万三千三百三十六人、男女不詳一人、死產十二万七千二百十三人內男六万四千九百九十三人、女六万二千二百十八人、男女不詳二人又異動ハ結婚五十万千七百七十七、離婚十一万五千六百五十四、就籍七万千七百二十二人、他府縣ヨリ入籍十七万六千九百八十六人、府縣內入籍五十九万三百九十六人、他府縣ヨリ入寄留百八十八万七千五百三十四人、有籍者他府縣ヨリ在監六万三千百十六人、陸海軍在營艦者九万五千五百九十七人、他郡市區ヨリ入寄留百十七万九千六百十五人、他府縣ヘ送籍十七万四千三百五十九人、府縣內送籍五十八万八千八百三十五人、除籍一万九千七十五人、外國行四万八千三百六十三人、他府縣ヘ出寄留七十六万二千八百六十二人、他郡市區ヘ出寄留六十九万四千三百二十六人、有籍者他府縣ヘ在監四万六千二百四十七人、府縣ヨリ陸海軍ヘ入營艦者十万二千八百九十八人、失踪二十九万四千三百八人ナリ（內務省）

○地方議會

○縣會議員當選 福岡縣ニ於テ三池郡選出縣會議員永江純一辭職セシニ依リ其補闕選擧ヲ行ヒシニ佐々木高當選セリ（福岡縣）

○市會議員改選 石川縣ニ於テ金澤市會解散ニ附キ去月五、十、十三ノ三日市會議員ノ改選ヲ行ヒシニ左ノ如ク當選セリ（石川縣）

一級

能澤長太郎
石崎達治
松岡忠輔
奧泉次助
島林源三
宮野直道
木倉谷長與門
西村政規
谷村庄平
鶴舍九平
小原正虎
永山貞秀

二級

奧村榮滋
谷與三右衞門
龜田伊右衞門
西永公平
金丸孫太郎
渡瀨政禮
久保田全
今村勇次郎
高野保太郎
白尾谷吉郎兵衞
澤田次作
越村長次郎

三級

柿田正次
奧泉伊平
本多政以
餝谷與右衞門
山森隆
小鍛治市左衞門
磯村惟亮
中屋彥十郎
能久治
鶴谷正方
武村彌吉
千代傳兵衞

○外報

佛蘭西

○歲入不足補塡ノ財源 本日（二十五日）豫算委員會ニ於テ外國證券ニ關スル重要ノ決議ヲ爲セリ此決議ハ本年七月ニ可決セラレタル地租輕減ヨリ生スル歲入不足ヲ補塡スルカタメ千八百七十二年ノ法律ニ從ヒ從來無稅タリシ外國證券ニ

課税シテ千万法ヲ收得スヘシト云フニ在リ其他該委員會ハ外國政府ヨリ發シタル公債證書ノ印税ヲ增加シテ千六百万法ノ歳入ヲ增收スヘキコトヲ決議シタレトモ佛蘭西ノ證券ニ增税スヘキ提議ハ否決セラレタリ（去月二十五日巴里發電報）（去月二十七日紐育トリビューン）

獨逸

○新發明ノ煤煙燃器　伯林ノ某商店ニ於テ專賣特許ヲ受ケタル一種ノ煤煙燃器ハ煖爐中ニ置クヘキモノニシテ陶製ノ板ヨリ成リ其構造極テ簡單ナリ之ヲ使用スレハ燃材ノ煤煙全ク燒盡シ之カタメ平均燃材ノ二割ヲ節儉シ得而シテ其据附方モ普通ノ火夫ニテ辨シ得ル程容易ニシテ其代價ハ四百馬ナリ此事ニ通曉スル者ノ言ニ從ヘハ此新發明ノタメニ石炭ノ使用上ニ大變更ヲ來スヘシト云フキールヨリノ通信ニ據レハ同地官設造船所ニ於テ右ノ新發明ニ附キ試驗ヲ爲セシ結果トシテ獨逸政府ハ總テ海軍ノ蒸氣罐ニハ此煤煙燃器ヲ据附クヘキコトヲ命シ且ツ右ノ發明者ニ對シ煤煙燃器專賣權ノ讓渡ニ附キ協議ヲ開クニ至レリ又在伯林北米合衆國大使館附海軍武官ハ本國ヘ特報ヲ發シテ北米合衆國ノ海軍ニ於テ右ノ新發明ヲ採用センコトヲ勸告シ支那公使館附海軍武官ヨリモ其本國ヘ右ト同一ノ報告ヲ爲セリト云フ（去月六日紐育スターツ、ツァイツング）

濠太剌拉西亞

○新西蘭ノ外國貿易　新西蘭ノ公報ニ據レハ其昨年ノ外國貿易總價額ハ千八百八十六年ノ二億六千九百万馬ニ對シ三億二千九百万馬ニシテ内輸入價額ハ一億四千二百六十万馬、輸出價額ハ一億八千六百四十万馬ニ達セリ今新西蘭ノ人口ヲ七十五万程ニ過キサルモノトスレハ一人ニ對スル輸出價額ハ非常ニ巨額ナルモノナリ輸出品ノ重ナルモノハ鑛業品ヲ除ケハ凍肉ナルカ其輸出價額ハ十年間ニ千八十万馬ヨリ三千三百万馬ニ增加セリ又農業ニ附キテ一言セン新西蘭ノ耕地面積ハ千八百九十一年ニ於テ八百四十万噎ナリシニ昨年ハ千七十万噎ニ增加シ羊ノ數ハ同期間ニ千六百七十万頭ヨリ千九百十万頭ニ大家畜ノ數ハ八十三万千頭ヨリ百四万七千九百頭ニ增加セリ（本年十月十四日澳國商業博物館週報）

○觀象

○全國天氣豫報　十二月一日分（自十一月三十日午後六時至十二月一日午後六時）

（一、二、四、六）北又ハ西ノ風、晴（三、五、七）北又ハ西ノ風、概ネ晴但シ雨又ハ雪模樣ノ所アリ

○東京地方天氣豫報　十二月一日分（自十一月三十日午後六時至十二月一日午後六時）

北ノ風、晴

○解警戒　十一月三十日午前八時二十分七區沿海ノ警戒ヲ解ク

○地震　岐阜外三箇所ノ地震報告左ノ如シ

岐阜　十一月二十九日　午前十時十分二十九秒　微
同　同　午後十二時五十分四十八秒　微
和歌山　同　同三時五十七分五十秒　微
新潟　同　同五時四十四分八秒　微
宮古　同　三十日　午前二時五十分十五秒　微
岐阜　同　同六時三十五分三十二秒　微

（以上中央氣象臺）

○廣告

○文官高等試驗合格者

明治二十六年勅令第百九十七號文官試驗規則ニ依リ本年施行シタル文官高等試驗ニ及第シ合格證書ヲ授與シタル者左ノ如シ

明治三十年十二月

文官高等試驗委員長

新潟縣平民	杉本貞治郎
兵庫縣平民	美濃部達吉
長野縣士族	筧克彦
東京府平民	神野勝之助
北海道平民	中川友次郎
島根縣平民	福山龜太郎
石川縣士族	小倉正恒
佐賀縣士族	北原種忠
新潟縣士族	永井金次郎
兵庫縣士族	岡田宇之助
福岡縣平民	安河内麻吉
香川縣平民	三宅源之助
山口縣士族	山中政亮
愛媛縣平民	池原鹿之助
愛知縣士族	川村敬三郎
岡山縣士族	矢部廉
山口縣士族	岩政憲三
宮崎縣士族	圖師庄一郎
北海道平民	中山成太郎
石川縣平民	松本順吉
東京府士族	赤司鷹一郎
新潟縣平民	松原十一郎
京都府平民	河田貫三
廣島縣平民	東多次郎
岐阜縣平民	杉田巻太郎
大分縣平民	松田源治
北海道士族	村田俊彦
東京府士族	小原新三
和歌山縣平民	浦太郎
北海道士族	石田愼太郎
長野縣平民	河野秀男
長野縣士族	林恭次郎
佐賀縣士族	西久保弘道
山梨縣平民	森義一
長野縣平民	小林歌吉
東京府士族	三好海三郎
長野縣平民	有賀光豊
茨城縣平民	淺野兼助
新潟縣士族	秋山清
東京府士族	田村清七
靜岡縣平民	鈴木要太郎
山形縣士族	黒金泰義
鹿兒島縣士族	池袋秀太郎
和歌山縣平民	角源泉
山口縣平民	神西由太郎
鹿兒島縣士族	和田世民
東京府平民	井上孝哉
愛媛縣平民	川上常郎
新潟縣平民	吉田金作
青森縣士族	伊藤祐一
高知縣士族	岡林猛
秋田縣平民	川村竹治
栃木縣士族	戸村六壽
東京府平民	阪口新圃

○稅關監吏補試驗

本月十日本關ニ於テ監吏補試驗ヲ執行ス志願者ハ左項ニ依リ同九日マテニ履歴書ヲ添ヘ本關ニ願出ツヘシ

第一　年齡二十歲以上三十五歲以下ニシテ徵兵ニ關係ナキ者
第二　身體健全ニシテ近視眼ニアラサル者
第三　軀幹五尺以上ノ者
第四　本港又ハ東京市ニ於テ身元確實ナル保證人アル者
第五　試驗科目

一　讀書　漢文又ハ漢字交リ文講讀
二　作文　假名交リ書牘文記事若クハ論説文
三　算術　加減乘除、分數、比例
四　筆寫　楷行兩體
五　外國語　英、佛、獨ノ内講讀、書取、會話、翻譯

但シ稅關雇員ニシテ滿二年以上勤續シタル者及陸海軍服役滿期ノ下士及小學校ノ正教員ハ本科目中一ヨリ四マテノ試驗ヲ要セス外國語ノミノ試驗ヲ爲ス

明治三十年十二月

横濱稅關

○辯護士口述試驗

本月八日ヨリ司法省ニ於テ辯護士口述試驗ヲ擧行スヘキニ附キ左記受驗者ハ洋服又ハ羽織袴著用同日午前八時三十分マテニ出頭シ特ニ發シタル通知書ヲ差出スヘシ但シ左記人名中ニ記載セサル者ハ筆記試驗ニ合格セサルモノト心得ヘシ

明治三十年十二月

辯護士試驗委員長　春木義彰

壹岐寅之進　林賴三郎　土岐嘉平　豐田多三郎　小谷野鉚作　大畑常治　奥田晙

尾崎敬一郎　小川成之　渡邊源太　渡邊澄也　川島仟司　門屋直哉　田中準三

谷岡熊吉　瀧澤儀助　武内作平　辻守太郎　永井金次郎　永井作次　南館文一郎

中島常松　内海英吉　野村此平　柳田新治　松本軍太　松丸鎌之助　降旗熊次郎

淺野定太郎　天津彌太郎　淺野兼助　天野敬一　赤尾藤吉　青山幾之助　眞田一夫

平島直太郎　茂木清　關戸寅松　杉本義一　鈴木源藏

○購買入札

一布海苔　六千基　但シ三回ニ分納　入札保證金百二十圓
一松薪　三万九千貫目　同上　同　金六十九圓
一曹達灰　三万基　同上　同　金八十四圓
一牛蠟　二万四千斤　同上　同　金百六十二圓

右購買ス入札望ノ者ハ當所ニ出頭見本、入札心得書及契約書案等熟覽ノ上布海苔、松薪ハ本月十六日、曹達灰、牛蠟ハ同十八日孰モ午前十時三十分限入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ千住製絨所長内海春實擔任ス

明治三十年十二月一日　千住製絨所

一粘土　立二百坪　入札保證金各自見積金高百分ノ五以上、契約保證金落札金額百分ノ十

右購買ス入札望ノ者ハ建築科ニ就キ契約書案及入札心得書等熟覽ノ上來ル十二月十六日午前十時限二年以來其業ニ從事セル旨ノ營業證明書及入札保證金ヲ添ヘ同科ニ入札スヘシ同時三十分同科ニ於テ開札ス

此契約ハ吳鎭守府經理部長原田啓擔任ス

明治三十年十一月二十七日　吳鎭守府經理部

一八番鐵線　二十六万八千八百封　新橋納
一錻　三万四千六百十挺　新橋納

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ二年以來其業ニ從事スル者ニ限ル

右購買ス入札望ノ者ハ來ル十二月十二日マテニ當部購買掛ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上同十五日午前十一時限入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ鐵道作業局計理部長圖師民嘉擔任ス

明治三十年十一月二十九日　鐵道作業局計理部

一異形煉化石　四十二万四千箇　新橋靜岡間納
右來ル十二月十六日當部ニ於テ入札執行
一間知石　二百五十面坪　沼津靜岡間納
一石材二點　沼津濱松間納
右來ル十二月十六日靜岡出納事務所ニ於テ入札執行
一松丸太　二百八十本　南多摩郡淺川村字小佛納
右來ル十二月十六日八王子派出所ニ於テ入札執行
一間知石　二百八十面坪　輕井澤飯塚間納
一鉋形煉化石　四十万箇　長野納
右來ル十二月十六日長野出納事務所ニ於テ入札執行
一松板及松丸太　七點　八幡神戸間納
右來ル十二月十七日神戸出納事務所ニ於テ入札執行
一松板　延幅三千尺　東筑摩郡冠著隧道納
一錏　二万千挺　篠ノ井納
一土管　二千五百本　篠ノ井納
右來ル十二月十七日篠ノ井派出所ニ於テ入札執行

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ入札當日三日前マテニ前記各部所ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上當日午前十一時限前記ノ部所ニ入札書ヲ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ鐵道作業局計理部長圖師民嘉擔任ス

明治三十年十一月三十日　鐵道作業局計理部

○購買及拂下入札

一配達用蝦蟇口　千五百箇（購買）　入札保證金四十四圓　本月十六日入札即日開札
一反古紙　凡ソ四千五百二十七貫五百匁（拂下）　同　金百九圓　本月十七日入札即日開札

右供給及買受望ノ者ハ入札前日マテニ當局調度課用度掛ニ就キ見本、仕樣書、品目明細書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上各〻入札當日正午十二時限入札スヘシ同日午後一時當局調度課ニ於テ開札ス

此契約ハ遞信省監查局長中橋德五郎擔任ス

明治三十年十二月一日　遞信省監查局

○購買入札廣告中訂正

本月十九日附當部購買入札廣告（同二十二日本欄内掲載）中松挽材「九百五十三挺」ハ「九百八十三挺」ノ誤ニ附キ訂正ス

明治三十年十一月二十九日　鐵道作業局計理部

○工事請負入札

第一號　新設野戰砲兵第十二聯隊（小倉）野砲一大隊馬糧庫新築　第二號　同上（同）砲兵一個大隊馬廐新築

以上每號入札保證金各自見積代金百分ノ五以上、契約保證金落札金高百分ノ十、入札者ハ二年以上引續キ其業ニ從事セル者ニシテ郡區長又ハ市町村長ノ證明アル者ニ限ル此證明書ハ總テ入札期日三日前マテニ差出スヘシ

右請負望ノ者ハ來ル十二月十三日マテノ内午前八時ヨリ午後四時マテニ當部ニ就キ入札心得書、契約書案、工事設計書及圖面等熟覽ノ上同十五日午前十時限入札保證金ヲ添ヘ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ臨時陸軍建築部熊本支部長渡邊耕作擔任ス

明治三十年十一月三十日　臨時陸軍建築部熊本支部

○公示催告

栃木縣下野國上都賀郡清洲村大字久野　申立人　安生武一郎
東京市日本橋區川瀨石町十七番地辯護士　右代理人　石川甚作

一送金手形金額一千圓也　一葉
栃木縣下野國上都賀郡清洲村大字久野　依賴人　安生武一郎
右同所　受取人　右同人

但シ明治三十年四月十九日附下野國上都賀郡鹿沼町株式會社鹿沼銀行發行ノ第一一六號手形東京市日本橋區小舟町合資會社安田銀行宛ニテ申立人ノ同行ヨリ支拂ヲ受クヘキ手形

一送金手形金額二千四百圓也　一葉
右同所　依賴人　右同人
右同所　受取人　右同人

但シ明治三十年四月十九日附栃木縣下野國上都賀郡鹿沼町株式會社鹿沼銀行發行ノ第三一號手形東京市日本橋區富澤町第四十國立銀行支社宛ニテ同行ヨリ申立人ノ支拂ヲ受クヘキ手形

一送金手形金額五百圓也　一葉
栃木縣下野國上都賀郡清洲村大字深程　依賴人　宇塚善十郎
同縣同國同郡同村大字久野　受取人　安生武一郎

但シ明治三十年四月二十三日附栃木縣下野國上都賀郡栗野村株式會社栗野銀行發行ノ手形ニシテ（十五ノ第二號）東京市日本橋區堀江町株式會社東海銀行宛ニテ同行ヨリ申立人ノ支拂ヲ受クヘキ手形

右手形ノ所持人ハ明治三十一年六月一日午前九時マテニ當區裁判所ニ其權利ヲ屆出テ且ツ此手形ヲ提出スヘシ若シ此期日マテニ其屆出ヲナサス且ツ之ヲ提出セサルニ於テハ其無效タルヘキコトヲ宣言スヘシ依テ此旨催告ス

明治三十年十一月二十九日

東京區裁判所
判事　中山要人

東京府武藏國東京市麴町區及豐多摩郡淀橋町ノ内
一市街宅地九百六十五坪三合一勺
一郡村宅地、畑（畦畔共）合段別三町六段二畝二十歩

右伯爵井伊直憲所有ノ分今般世襲財産ト爲シタキ旨同人ヨリ願出テタル趣宮内大臣ヨリ達セラレタリ依テ該財産ニ關シ故障アル者ハ明治三十一年一月七日マテニ當廳ニ申出ツヘシ

但シ地所番號等承知セントスル者ハ當廳内務部第五課ニ申出ツヘシ

明治三十年十二月一日

東京府

一當銀行舊株	百七十株也
一同　新株	百二十八株也
一同　第二新株	二百九十八株也

右伯爵井伊直憲所有ノ分世襲財産ト爲シタキ旨同人ヨリ願出テタル趣宮内大臣ヨリ達セラレタリ依テ該財産ニ關シ故障アル者ハ來ル十二月七日マテニ當銀行ニ申出テラルヘシ

但シ株券番號承知セラレタキ向ハ當銀行書記課ニ申出テラルヘシ

明治三十年十二月一日

横濱正金銀行

一當銀行株式	一千九十三株	伯爵柳澤保惠所有ノ分
一同	六百四十八株	子爵京極高德同
一同	三百株	男爵池田勝吉同

右ハ今般世襲財産ト爲シタキ旨願出テタル趣宮内大臣ヨリ達セラレタリ故障アル者ハ明治三十一年一月六日マテニ當銀行ニ申出アルヘシ

但シ株券番號承知シタキ者ハ當銀行文書課ニ申出アルヘシ

明治三十年十一月三十日

株式會社十五銀行

一當會社株式	一千株	伯爵堀田正倫所有
一同	五百株	子爵京極高德同
一同	二百七十四株	男爵池田勝吉同
一同	二百株	子爵堀田正路同

右ハ今般世襲財産ト爲シタキ旨願出テタル趣宮内大臣ヨリ達セラレタリ依テ該財産ニ關シ故障アル者ハ明治三十一年一月六日マテニ當會社ニ申出テラルヘシ

但シ株券番號承知セラレタキ向ハ當會社會計課ニ申出テラルヘシ

明治三十年十一月三十日

日本鐵道株式會社

兌換銀行券發行高毎週平均高報告

自明治三十年十一月二十二日
至明治三十年十一月二十七日

摘要	金額	摘要		金額
兌換銀行券發行高	195,176,190.000	準備		
		金貨及金塊	86,793,064.000	
		銀貨及銀塊	2,706,183.000	89,499,247.000
		保證		
		公債證書	33,106,740.000	
		政府證券	22,000,000.000	
		證券	26,000,000.000	
		商業手形	24,570,203.000	105,676,943.000
總計	195,176,190.000	總計		195,176,190.000

兌換銀行券發行高ノ内 25,841,238.000ハ制限超過高

明治三十年十一月三十日

日本銀行

日本銀行營業毎週報告

明治三十年十一月二十七日

負債		資產	
摘要	金額	摘要	金額
株金	30,000,000.000	拂込未濟株金	7,500,000.000
積立金其他株主ニ屬スル勘定	21,185,790.048	割引手形	41,384,603.018
兌換銀行券發行高	196,315,723.000	外國割引手形	5,182,779.230
政府預金	76,190,405.783	政府貸出金	28,831,132.000
預金	3,915,754.318	貸出金	111,425,891.039
爲替借	12,920.627	爲替貸	1,216,566.351
		公債證書	39,558,041.860
		所有物	1,422,904.675
		通貨及地金銀	91,098,675.603
總計	327,620,593.776	總計	327,620,593.776

明治三十年十一月三十日

日本銀行

明治二十五年三月三十一日遞信省認可　（一六）　印刷局印刷